

なんでも年のせいにしていけば、治る病
気も治らない。逆に、重い病気を疑ってば
かりでは、不安は増すだけだ。

68歳のF子さん。数力月前から、右手指
のふるえが気になる。何もしないで、じっ
としている時は大丈夫だ。が、箸を使った
り、字を書くときなどにふるえる。最近、
少し目立つようになった。が、「ま、年の
せい?」と密かに悩んでいた。ある時、知
人に、「それ、パーキンソン病じゃな
い?」と言われて、うろたえた。

診察で、手を前に出してもらうと、左右
の手指がふるえる(振戦)。左右差はほと
んどない。だが、パーキンソン病にみられ
る手足の筋肉のこわばりはない。歩き方も
普通で、小股でちよこまかと歩くことはな
い。パーキンソン病は否定的である。そも
そも、パーキンソン病の振戦は、じっとし
て動かない安静時にみられるのが特徴であ
る。F子さんの振戦は、手や腕を動かして
いる最中の運動時にみられる。このふるえ
は、「本態性振戦」と呼ばれる。

本態性振戦は、稀まれなものではない。どの
年齢でも起こる。が、加齢に伴い、振戦が
目立つようになる。で、老人の病気と間違

えられやすい。が、成人期の初期に発症す
る。原因として、小脳の異常が疑われてい
るが、よく分かっていない。ただ、家族に
本態性振戦のいる人に、発症しやすい。

本態性振戦は、進行するにしてもゆっく
りで、日常生活に支障をきたすことは少な
い。が、人目を気にする人は服薬を希望す
る。で、血圧の治療に使うβブロッカー
を飲んでもらうことになる。で、あのしょ
げこんでいたF子さんも、今はニコニコ顔
をしている。

もちろん、振戦には、パーキンソン病や
本態性振戦以外のものもある。治療に急を
要するものもある。体のどこかがふるえた
ら、簡単に考えないで相談を。

(石黒修三=いしほろクリニック・脳神経
外科医・7/18北國新聞掲載)